
いつか見たあおい空を望む

笑顔中毒者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつか見たあおい空を望む

【Nコード】

N66170

【作者名】

笑顔中毒者

【あらすじ】

その村には妖怪がでるらしい……

いつもは厳しかった祖父が話してくれた、お気に入りの話。そこには祖父の恋心が秘められていた……。

そんな思いつきだけで書き始めた支離滅裂な話。

帰郷（前書き）

注）

この物語は一応自分で考えてますが、無意識にパクリとかやらかしています。著作権を侵害する気はまったくないのでありますが、もしあったらこっそり教えてくださいます。誤字脱字、言葉の誤用等につきましても指摘してくださいと大いに助かります。

注2）読んでくださった方（まあそんな奇怪な人はいないと思いますが）に申し訳ないのですが、気分で書いてます。続きが滞るところも多々あると思います。申しわけございません。

上記以外にもいろいろやらかしますが、どうか面白い作品が書けるようにがんばっていきたいとは思っています。

帰郷

獣道を抜けるとそこには青い空が広がっていた。

「帰ってきちゃったか」

言葉にするつまりはまったくもってなかったのについつい言葉にしてしまう。

東京で一人ぐらししてる上に友達も少ないとなると、話す相手が自分しかいなくなるのだから仕方がない。

………こんな村に帰ってきたくなかった。つらい思い出しかないこんな村に。

実家は戦前から続く村有数の名家だ。

子供の頃は厳しい英才教育を強いられ学業も結果だけを求められた。同級生と遊ぶ時間なんかもちろんもらえず引つ込み思案だったこともあり、友達がいなかっただけでなく、同級のおもちゃ道具にされたこともしばしば。そのことを親に相談しても最後には必ず祖父が割り込んできては、

「おまえは自分の敵と戦えないほど、臆病者だったのか！」

とかいわれた記憶しかない。

祖父は大和魂を持った軍人だった。戦争が終わっても、威張りくさることもこびへつらうこともなく自分の命運を受け入れ、財産を切り崩しては村の発展のために尽力を惜しまなかった。そして自分の孫は大和魂を持った精神的に強い者に育てあげるとの信念のもと、朝は乾布摩擦に始まり、夜までしごかれた。放課後は大体、2時に下校。5時まで勉強。7時まで柔剣道の特訓。8時就寝。そんな生活だった。

もちろん、そんな生活に嫌気がさして東京の学校に逃げ込んだのはいうまでもない。

そして今日は、厳しくそしてあまり好きではなかった祖父の葬式だ。最初に行くつもりはなかったのだが、唯一自分の味方だった母に「顔を見せに来なさいよ。」等の言葉を言われ、まあ言われてみれば家を出てから一度も帰ってないことだし、もう一度村の景色を見るのもいいかなと思ってしまった拳句いそいそと荷物をまとめ、職場に一週間ほどの休みを申請し東京を出た。

そして今に至る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6617o/>

いつか見たあおい空を望む

2010年11月17日05時45分発行